

第 157 回電波利用懇話会 (ARIB、NICT 共催)

「テラヘルツ帯 (300GHz 帯) を用いた 100Gbit/s 級無線通信技術の研究開発動向」

ご 案 内

一般社団法人電波産業会
国立研究開発法人情報通信研究機構

今回の電波利用懇話会は、国立研究開発法人情報通信研究機構 (NICT) との共催により開催いたします。

昨今のモバイル環境におけるデータ通信トラフィックの伸びには著しいものがあります。スマートフォンには4Kディスプレイやカメラが搭載されるようになってきました。公共交通機関の車内におけるスマートフォンでの動画視聴も見慣れた風景となりつつあります。モバイルユーザーによる動画データ生成とクラウドへのアップロード、さらには短時間動画のやり取りがソーシャルネットワークサービス (SNS) におけるコミュニケーション手段の中核となりつつあるなど、トラフィック中では動画のデータが大部分を占める状況であり、このような大きなモバイルトラフィックの伸びをどのようにして収容するかが大きな問題となっております。

そのような中でテラヘルツ帯 (0.1~10THz) の電磁波を用いた各種応用の研究開発が活発になって来ています。中でも無線通信の分野においては、これまでにない広いバンド幅を確保し、100Gbit/sという光ファイバー通信並みの伝送速度を目指した研究開発が日本や欧州において活発化しています。100Gbit/sという速度があると、DVDデータ (4.7GB) を0.5秒以内で伝送できるなど、高速で電力消費の少ない無線通信手段として、テラヘルツ帯、特に300GHz帯を用いた無線通信技術に注目が集まってきています。また、電波産業会ではテラヘルツ (主に250GHz~1THz) の幅広い利用・応用分野が期待されるアプリケーション、システムを明らかにするとともに、開発課題、周波数要件、制度課題などを広く調査検討し、産業界におけるテラヘルツの研究開発と実用化を促進することを目的として、新たな調査研究会の立ち上げを計画中です。

今回の電波利用懇話会では、テラヘルツ技術の研究開発や標準化で活動しておられる国立研究開発法人情報通信研究機構の未来ICT研究所 所長でありテラヘルツ研究センターのセンター長も務めておられます實迫 巖様をお迎えして、300GHz帯を用いた100Gbit級無線通信技術ポテンシャル、国際動向についてご説明いただくとともに、総務省の電波資源拡大のための研究開発「テラヘルツ波デバイス基盤技術の研究開発」において取り組まれている成果についてご紹介いただきます。

ご関心をお持ちの多くの皆様をご参加下さいますようご案内申し上げます。

記

- 1 日 時 : 平成 30 年 1 月 19 日 (金) 14 時から 15 時 30 分まで
- 2 場 所 : 一般社団法人電波産業会 会議室
東京都千代田区霞が関一丁目 4 番 1 号 日土地ビル 11 階

- 3 主 催 : 一般社団法人電波産業会 (ARIB)
- 4 共 催 : 国立研究開発法人情報通信研究機構 (NICT)
- 5 題 名 : 「テラヘルツ帯 (300GHz 帯) を用いた 100Gbit/s 級無線通信技術の研究
開発動向」
- 6 講 師 : 国立研究開発法人情報通信研究機構 テラヘルツ研究センター
センター長 寶迫 巖 様
- 7 参 加 者 : 70 名程度 (定員になり次第締め切らせていただきます。)
- 8 申 込 先 : 当会ホームページの講演会等開催案内よりお申込ください。
(<https://www.arib.or.jp/osirase/seminar/index.html>)
- 9 参 加 費 : 無料
- 10 問 合 せ 先 : 一般社団法人電波産業会 企画国際部 電波利用懇話会事務局 小田島まで
TEL: 03-5510-8592 E-mail: arib-seminar2017@arib.or.jp

以上